

令和2年度 へき地校体験実習 アンケート集計結果（令和3年3月25日現在）

実施者：北海道教育大学 へき地・小規模校教育研究センター

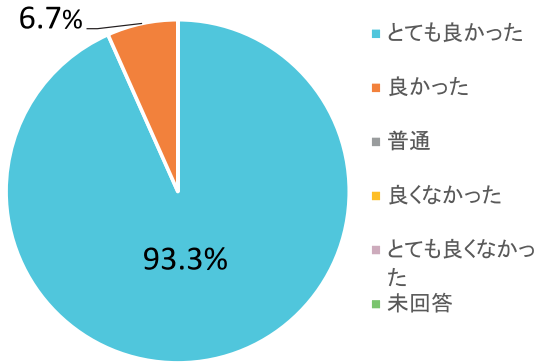
実施形式：直前指導もしくは実習手帳提出時に配付

実施期間：令和2年8月～10月

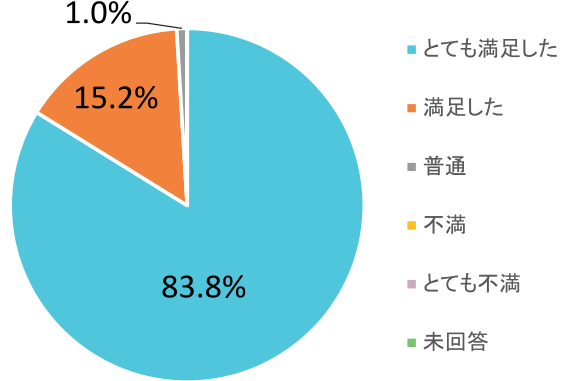
対象者：106名（札幌・旭川・釧路校 へき地校体験実習〔夏期：1週間〕履修生）

回答者：105名（回答率99.1%）

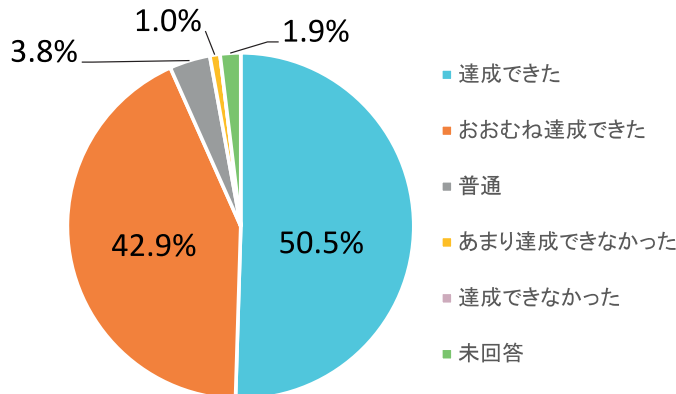
1. 実習に参加してよかったか



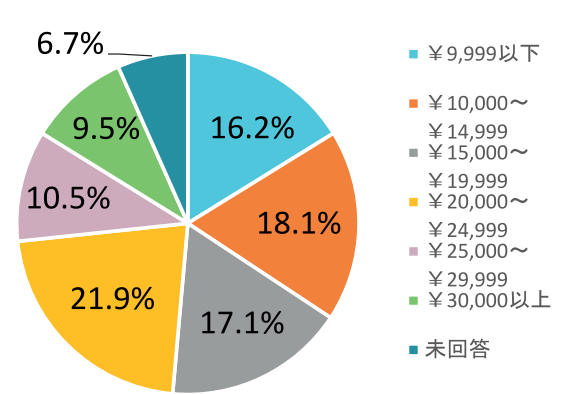
2. 実習の満足度は



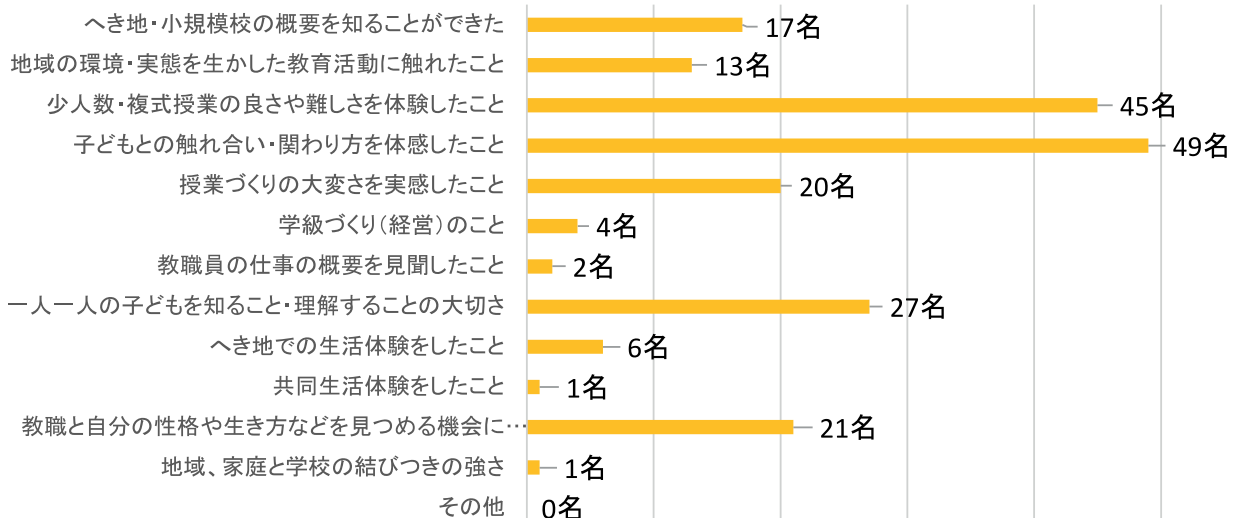
3. この実習で学びたかったことに対する達成度



4. 実習経費



5. 今回の実習で最も大きな成果・学んだこと・感じたことなど（1名2項目回答）



令和2年度 へき地校体験実習Ⅰ・Ⅱを終えて ～ 受講生アンケート

実習を終えた感想

- 子どもたちと一緒に生活を過ごせること、子どもたちの頑張りを間近で見られることに自分自身が幸せや喜びを強く感じるのだと知ることができ、自分の将来について考える機会となった。研究、授業をする経験を通して「授業をつくる」ということの難しさを実感し、自分の課題をたくさん発見できたことが、大学生活の学びに繋がられると感じた。
- 5日間、同じ学級で過ごすことで、児童一人一人の性格や人間関係について見えてきた部分もありました。また、へき地・小規模校ならではの、学年問わず仲が良い所などを、実際に学校の中で感じることができました。児童と関わる中で、どのように接すればよいかなど、分からない点がたくさんあり、もっと大学で勉強したいという意欲もわいてきました。
- 4年間で最後の実習だったのだが、行って本当に良かったし、できることならもっと長くいて、さらに多くのことを学びたかった。実習校の児童は素直で明るく、この子たちの成長を見守りたい、自分もその過程に関わりたいという、教師になりたい気持ちを再認識できる充実した5日間だった。
- 実習校の子どもたち、教職員は本当にあたたかく、このような雰囲気のある学校だからこそ、子どもたち、教職員ともにいきいきしている。実習の5日間で児童の欠席は全校で0人、当然不登校の児童もいない。子どもたちの学校に対する満足度の高さがわかる。児童一人一人を大切に、子どもと教師が共に学ぶ環境は札幌市の教育でも大切なことであり、実習校のよさを札幌で生かしたい。
- 実際に現場に入ることによってへき地・小規模校の強みも課題も鮮明に見えた。それと同時に、学校規模に関わらず教育現場に求められているものについても考えることができた。へき地校体験実習とは言えども、へき地・小規模校の教育に固執するのではなく、広い視野で現場を見るのが大切だと思った。1週間という期間はたしかに短かったが、時間以上にたくさんを学べた自信がある。そして、ここでの経験は必ず本免実習につなげることができると確信している。
- 非常に多くの学びがあったと率直に感じる。それは、へき地・小規模校の教育に関する新たな発見という意味でもそうだが、生徒とどう関わっていくとよいかなど生徒との関わりという意味でも、である。特に、個人として実際の教育現場に赴く実習経験が浅い中で、生徒と関わる時間というのはとても貴重であったし、授業を観るというのも非常に勉強となる機会だった。
- 私は学校の先生になるか迷っていましたが、今回の実習で少しやってみたいという想いが強くなりました。大学の講義だけでは知ることのできないことを沢山知ることができて、今後の生活に生きていくと感じました。授業をやることは難しく大変でしたが、児童の反応などを見ていると頑張った良かったと思いました。
- へき地だから、というよりも、少人数だからできることの方が多くあったと感じる。今後の教育の変化として小規模化が進むことが予想されるが、そうなったときに、役立つようなことが多く学べた。また、地域との関わりが強くあることは、子どもにとっても、地域にとっても素晴らしいことだということを実感することが多かった。
- とにかく「疲れた」という一心です。子どもたちはパワフルで、特に宿泊研修後は耐えがたい疲労感がありました。しかし、子どもたちは本当にかわいかったです。みんな実習生に慣れていて「今年は女の先生だ」というように話していました。私はなかなか積極的に関わることのできない性格なので、日誌を書くたびに向いていないかもしれないと悩みましたが、子どもが笑顔になったり、話しかけたりした時は教師になりました。

いと感じました。自信があってもなくても、ぜひ実習に参加してみてください。自分の向いているところも向いていないところにも、向き合うことのできる大きなチャンスでした。

- 教育実習を終えた後での実習だと反省点などを活かして実習に臨めるのでより成長につながると感じた。また、へき地校の教員の方が向いているのではないかと感じる部分が多々あった。
- 実習を終えて、「達成感」を大きく感じる事ができた。1週間はあつという間に終わってしまったが、とても濃い日々だったと思う。自分自身の足りない部分・課題を見つけることができ、自分自身の大きな成長につなげることができ、実習に参加してよかったと思う。
- 運動会、遠足等の行事や普段の授業等、共に過ごさせていただいて、学校間、学校と地域など人と人の距離が近く、親しみやすいところだという印象を受けた。子どもたちが活動に取り組む様子や色々話しかけてくれる姿、先生方が少ない人数の中で様々な準備をし、子どもたちを優しく見守る姿を見て、実習前よりも教員を目指したい気持ちが強くなった。
- 確実に自分の力になっていると、大学へ戻って思いました。授業をどう構成するか、児童とどう関わるかなど、机上だけでは学べないことをたくさん吸収できました。記録やレポートも書くのは大変ですが、将来読み返した時に、役に立つのではないかと思います。
- 何よりも先生として子どもたちと交流する機会が得られて本当によかった。先生になりたいという思いがより強くなり、中学校主免だが小学校に対する関心がより大きくなった。たった一週間しか一緒に過ごすことはできなかったが、数年後には中学校、高校へと進んでいく子どもたちの成長を見届けたいと思った。
- 実習を経て知識面で学びを得た部分はありますが、それ以上に精神的に大きく成長できた部分が大きいと感じています。実際に先生方や生徒たちと関わったことで以前よりも心理的に前向きにそして明るくなり、何事にも積極的に取り組む姿勢を身につけられたように思えます。
- 行く前は、初めての实習であり、知らない土地で緊張と不安でいっぱいでしたが、実習先の仲間の支えや、温かく迎えてくださった実習校の皆様、そして、宿泊先やバスを私たちのために用意してくださった地域のみなさんのおかげでとても充実した実習となり、忘れられない思い出となりました。参加して本当に良かったです。
- 非常に楽しい実習であった。へき地の子どもの実態など学びたいことだけでなく、地域性や学校の特色を活かした学校経営の話はフィールドに還元するなど本当に参考になった。
- へき地教育論で学んだことを実践に移すことができ、へき地・小規模校のメリット・デメリットを実際に肌で感じる事ができて良かった。また、実習先の先生方と話す機会も多くあり、へき地校についてだけでなく、教員の実態についても教えていただくことができ、自分を見直すきっかけにもなって、実習に参加して良かったと改めて感じた。
- 大学の講義では学べない、地域とのつながりや子どもと先生の温かい雰囲気を感じながらの授業作りを学ぶことができました。大学では複式授業の形式を学びますが、教育現場では、児童一人一人の個性を尊重した指導がなされていました。先生方のそれぞれの指導方法が、どのような意図で指導がなされているのかを考えながら、そして実際に聞いたりしながら学ぶことができました。
- へき地・小規模校の利点を活かした教育活動を実際に見てみることで、へき地小規模校のイメージをプラス面に捉えることができた。へき地・小規模校だからこそできることがたくさんあることを知りイメージがとても良いものになった。
- へき地校体験実習に参加して、実際に理論（学校で学んだこと）を実践に移すことが沢山できたと感じました。他の地域のへき地校に行ってみたい気持ちも高まりました。